青少年育成センターだより

第１４５号　２０２２．１０．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

「掃除の心をちゃんと持っている子、掃除に心を入れてできる子は、中学に行っても、世の中に出ても、絶対にまちがいない」　（東井義雄　教育者）

「掃除の心」を持つ子どもに育てるには、小さいときから子どもと一緒に掃除をすることも一つの方法です。身のまわりをきれいにすることの喜びを感じる子どもに育てましょう。

公共の精神について考える（２）

「公共の精神」については、これまで「青少年育成センターだより第４７号」（平成３０年８月発行）で取り上げています（これまでのセンターだよりは、防府市のホームページに載せています。ぜひご覧ください）。平成３０年に行われたＷ杯サッカーの観戦者の会場を清掃する姿が報じられ、日本人の美徳が褒められたという記事から「公共の精神」について考えました。

今号でも、改めて「公共の精神」について考えてみましょう。

信号待ちで車を停めている時に、ふっと道ばたに目をやると、草むらに汚れたペットボトル、コーヒーの空き缶、レジ袋、紙くず、タバコの吸い殻などが目に入りました。そこは、人が歩かないところですから、どのゴミも車から投げ捨てられた物でしょう。その状況を見て本当に不快な気持ちになりました。おそらく、皆さんも同じような光景を目にされ、私と同じ気持ちになられた方も多いのではないでしょうか。

投げ捨てた人の気持ちは、どうだったのでしょうか。「車の中に置いておくのがいやだった」「つい何気なく捨ててしまった」・・・からなのでしょうか？数年前の出来事ですが、信号待ちの車の中から、男性が吸い殻入れを窓から差し出し、吸殻を全部捨てるという光景を見ました。隣には、女性が同乗していたのですが、女性はその行為を注意しなかったのでしょうか。

最近、日本人の「公共の精神」が崩壊してしまったのではないかということを感じることが多くなりました。コロナ禍前に、日本を訪れていた外国人が「日本の街、日本の道路はきれいで気持ちがいい」と言ったということを聞いたことがあります。そのような言葉を聞いた時には日本人として誇らしく思ったものです。今は、日本を訪れる外国の人が少なくなっていますが、今後コロナ感染が落ち着いて日本に多くの外国の人たちが訪れるようになった時に、これまでのように「日本はきれいだ」と言ってもらえるのでしょうか。

平気で、道ばたにゴミを捨てる、その行為の根底には、「自分さえよければいい」という考えが潜んでいるように思います。このような考え方は、ゴミの問題だけでなく、今起きている数々の問題の根源となっているように思います。青少年による犯罪、政治家や役人による汚職、企業による表示違反等の出来事も、「自分がよければ・・・」という考え方からこのような行動になっているのではないでしょうか。

今一度、家庭で「公共の精神」について子どもと話し合ってみてください。

文責＝青少年育成センター指導員　藤村